

# 年頭所感

東北森林管理局次長・青森事務所長 吉野 示右



平成29年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

皆様方には、常日頃より、森林林業行政、とりわけ国有林の業務運営に、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

昨年は、台風10号に伴い、岩手県沿岸地域を中心に大雨等による甚大な被害が発生した年でもありました。被災された方々にはこころよりのお見舞いを申し上げます。今後、被災地の早期復旧に取り組みとともに、災害に強い森林作りを進め、緑の国土強靱化に取り組んで参ります。

さて、昨年5月に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」において、原木の安定供給体制の構築が

施策の基本的な方針の一つとなっております。このことを通じ、林業及び木材産業を安定的に成長発展させ、山村等における就業機会の創出と所得水準の上昇をもたらす産業へと転換する「成長産業化」を早期に実現することが極めて重要となっております。

東北森林管理局としてもこれらに応えるため、木材の安定供給のためシステム販売を推進するほか、伐採と植栽を同時に契約する一貫作業システム、コンテナ苗の活用、列状間伐の推進等低コスト作業システムの導入に努めてまいります。

東北地方は、近年、LVLや集成材・合板等の大規模木材加工場や木質バイオマス活用施設が増加しており、国有林としても可能な限りこれらに対応し、森林・林業基本計画が描く世界の実現に努めて参りたいと考えています。

また、この地域特有の取組としてヒバ林の復元に向けた取組があります。かつてヒバ林が成林していた地域にスギやカラマツを植栽しましたが、そういう地域の中にはヒバの稚幼樹が元気に生育しているところがあります。そういう地域において、

主に天然力を活用してスギやカラマツ等の人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を推進します。昨年度に東青及び下北森林計画区にヒバ林復元推進エリアを設定し、本年度津軽計画区にもエリア設定したところで、息の長い取組となりますが、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

さらに、森林の多様な整備・保全として、松食い虫の北上を阻止するため、岩手県北部（岩手町）において、主伐期に達したアカマツ林を対象に大規模な樹種転換に取り組んでいます。近年増加傾向にある二ホンジカについては、三陸中部及び宮城北部で積極的に駆除するとともに、世界自然遺産である白神山地でも目撃例が増加していることから、センサーカメラによる監視のほか新たに小型囲い罠を設置し、捕獲を試みています。低コスト作業システムを導入するには、しっかりと二ホンジカ対策に取り組む必要があります。

新たな課題もありますが、大規模木材加工施設の増加や木質バイオマス活用施設の増加など、今森林・林業には明るい兆しを感じられる時代になりつつあります。先人から引き

継いだ大切な森林をこれからも守り、育て、活用し、日本の森林・林業の活性化につなげていきたいと考えています。

最後になりますが、皆様にとって、本年がよりよい年となりますよう祈念申し上げます。年頭の所感とさせていただきます。

